

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業提案書（基本情報）

1. 提案事業概要

提出日：平成22年11月26日

【事業名】	アジア核燃料会議（ANFC）の発足とキックオフ・ワークショップの開催
（英語名称）	Establishment of the Asian Nuclear Fuel Conference (ANFC) and Holding of the Kickoff Workshop
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	山中 伸介、教授、大阪大学・大学院工学研究科
【事業形態】*	（1）国際集会の開催
【実施期間】†	平成23年3月24日～平成23年3月25日（2日間）
【実施場所】†	大阪大学吹田キャンパス
【参加国・地域】†	日本、韓国、中国を中心とするアジア諸国
【事業概要】	<p>近年、エネルギー問題及び地球温暖化問題への現実的な対応として、原子力エネルギーに対する期待が急速に高まっている。特に日本、韓国以外のアジア諸国においては、これまで原子力エネルギーが殆ど利用されていなかったこともあり、中国を始めとする多くの国で新規原子力発電所の建設が多数計画されている。</p> <p>このような背景の下、日本、韓国、中国の産業界が中心となって、核燃料^{（注1）}の国際会議「Water Reactor Fuel Performance Meeting: WRFPM」を2005年より3年に1度の頻度で開催し、アジア地域における核燃料研究に関する情報発信や意見交換の場を設けている^{（注2）}。</p> <p>しかしながら、大学や研究機関といった学界を中心とした会議は無く、アカデミックレベルでは核燃料に携わる研究者間で殆ど交流がなされていないのが現状となっている。</p> <p>そこで、日本、韓国、中国の原子力学会が中心となり、今後原子力発電を推進しようとするアジア諸国の特に核燃料に携わる研究者を中心に、核燃料のフロントからバックエンドまでの基礎的な科学・技術・人文社会系の学問領域の研究・情報交換を促進し、ネットワークを構築することを目的として、「アジア核燃料会議（Asian Nuclear Fuel Conference：ANFC）」を設立する。ANFCに関しては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前述のWRFPMに随伴する形で3年に1度の頻度で開催すること ・ 開催場所はWRFPMのホスト国あるいはANFCの幹事国とすること ・ 幹事国は、日本、韓国、中国とすること ・ 我が国主導でネットワークを形成することから事務局は日本の大学が受け持つこと ・ 第一回ANFCは2011年に日本が幹事国となって開催すること <p>で合意が取れている。</p> <p>日本、韓国、中国の原子力学会の代表者によるANFC設立の調印に基づき、2011年3月、大阪にてANFCを設立し、キックオフ・ワークショップを開催する。そこでは、韓国、中国を始めとするアジア諸国における核燃料研究の第一人者と次代を担う若手研究者を招聘し、核燃料研究に関する情報発信や意見交を行うとともに、今後のANFCの活動・方針について議論する。</p> <p><small>（注1）核燃料とはその名の通り原子力発電の燃料のことを指し、これを高度化することは原子力発電の安全性や経済性の向上に直結するため、原子力工学の中でも特に重要な研究開発対象となっている。</small></p> <p><small>（注2）WRFPMは、第1回が2005年に京都、第2回が2008年に韓国・ソウルで開催されており、第3回は2011年に中国・成都で開催される予定となっている。</small></p>